

### 平成27年度定期総会 開催報告【平成27年6月11日(木)開催】



彩の国コミュニティ協議会会長  
埼玉県知事 上田清司

19%だったので、35年間で2.4倍になったこととなります。埼玉県内においてもこうした傾向が表れています。これは正に本協議会の会員の皆様が各方面で活躍しておられることの証明です。

例えば、ダントツ日本一の団体数を誇る民間防犯パトロールの活躍等によって実際に犯罪は減少しました。皆様には引き続き良好なコミュニティづくりのためにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

#### ◎会長挨拶

会員の皆様には、日頃から地域の絆を強めるために、多方面にわたり御支援、御協力を賜っておりますことに改めてお礼申し上げます。

日本人は地域貢献に対する意識が低いという話をよく聞きますが、平成25年に行われた調査によると、「日本人は他人の役に立とうとしている」と考えている人の割合が45%となりました。この設問が初めて取り入れられた昭和53年の調査では

#### 目次 contents

- P1 ■平成27年度定期総会開催報告
  - ・会長挨拶
  - ・永年表彰
  - ・講演「ご近所パワーで助け合い起こし」
- P2 ■共助社会に向けた地域の取組について  
～NPO法人ふじみ野明るい社会づくりの会～
- P3 ■市町村コミュニティ協議会の取組
- P4 ■会員紹介
- お知らせ



彩の国  
コミュニティ協議会  
マスコット  
サイコミ君

#### ◎永年表彰

彩の国コミュニティ協議会及び市町村コミュニティ協議会の役員として20年以上にわたり尽力された方に対する永年表彰を行いました。今年度の受賞者は以下の3名です。受賞の皆様おめでとうございます。

○新保 重夫 (越生町コミュニティ協議会) ○小林 邦直 (久喜市菖蒲コミュニティ推進協議会) ○青木 美恵子 (寄居町コミュニティ協議会)

#### ◎講演 「ご近所パワーで助け合い起こし」

住民流の福祉を定着させるための各種事業を展開している住民流福祉総合研究所所長の木原孝久氏をお招きし、御講演をいただきました。

##### 【助け合いができる新しい常識を作っていこう】

「詮索」「お節介」「ベタベタのご近所関係」などというと、あまり気持ちよく受け入れる気にはならないでしょうが、助け合いはきれいごとではありません。本当に助け合いたいのなら、助けられる側、助ける側の双方が、受け身の姿勢から攻勢に出る必要があります。

助けてもらうには、互いが積極的に関与して、隠したいことをオープンにしなければなりません。助け合いができる新しいおつき合いの常識をつくっていきたいものです。

##### 【「助けて!」と言えば大部分の人が応じてくれる】

日本人は、「助けて!」がなかなか言えません。講演会で「困った時、周りに助けを求めることができますか?」と聞くと、「できる」と答えるのはわずか3～5%程度です。

一方「困っている人がいたらどうしますか?」と聞くと、①「頼まれなくても助ける」が23%②「頼まれたら助ける」が72%③「断る」が5%。困っている人を助けると言う人が①と②を合わせて95%もいるのに「助けて!」と言える人がいないので、②の72%は手が出せないのです。この結果から、「助けて!」と言えるかどうか、助け合いが始まるためのカギを握っていることが分かります。ある自治体では、集まりの後に皆で「助けて!」と言う練習をしているところもあるようです。福祉は「助けて!」から始まるのです。



住民流福祉総合研究所所長  
木原 孝久 氏



# 共助社会づくりに向けた地域の取組について



## ～ NPO 法人ふじみ野明るい社会づくりの会～

埼玉県では、元気な高齢者等がボランティアとして、援助の必要な高齢者等の生活支援を行い、その謝礼を地域商品券等で受け取る「地域支え合いの仕組み」の普及を進めています。

これは、高齢者の日常生活の安心確保、元気な高齢者の介護予防、地域経済の活性化の一石三鳥の効果がある仕組みです。

今回は、NPO法人ふじみ野明るい社会づくりの会（以下「同会」）がふじみ野市で行っている地域支え合いの仕組みについて御紹介します。

同会では、「優=You&I=愛で地域支え愛事業」という名称で、平成22年の11月から実施しています。モットーは「あなたのいい顔見たい」。代表理事の北沢紀史夫さんをはじめとしたスタッフの皆さんが、利用者のことを第一に考え運営しています。

事業を始めたきっかけは、団体の発足30周年に当たり記念事業の実施を考えていた時、県が進める「地域支え合いの仕組み」の話の聞き、これだ!と思ったことだそうです。

現在では、1月当たりの利用時間数は2000時間以上と県内で最も多く、ボランティア登録者数も170人を超えています。多い時には1日に40人のボランティアが活動していますが、これまでボランティアがいないという理由で依頼を断ったことはないそうです。

事務局スタッフの皆さんもボランティアとして参加しています。

1日につき2~3人が担当し、空いている時間で無理なく活動しています。

中にはITに詳しいスタッフもあり、同会が利用

| 業務進行表 |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |  |  |  |  |  |  |
|-------|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--|--|--|--|--|--|--|
| 4     | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |  |  |  |  |  |  |  |

予定がぎっしり



依頼の電話に対応する事務局スタッフ

者とボランティアの登録やスケジュール管理などに活用しているシステムはこのスタッフが構築したものです。

事業に対する利用者の評判も上々です。例えば、利用者のお話では、単に掃除をしてもらうだけではなく、話し相手としても楽しみにしており、会話が弾み、お手伝いよりも話し相手になってもらう時間のほうが長い時たまにあるそうです。

同会では、現場でお手伝いするボランティアと事務局が2か月に1回意見交換を行い、情報共有に努めています。活動の中で感じた疑問点や利用者からの声などについて、問題解決と意思の統一を図っています。

また、ふじみ野市役所とも良好な関係を築いており、活動への支援を受けているそうです。こうした様々な努力により、支え愛事業はふじみ野市になくてはならないものになっています。

県内ではこのほかにも多くの地域で地域支え合いの仕組みが行われています。ボランティアに興味のある方はお住まいの地域で活動に参加してみませんか？



支え合い事業お手伝い作業中



# 市町村コミュニティ協議会の取組

県内の市町村コミュニティ協議会が行っている事業を御紹介します。皆様の活動の参考にしてください。

## マスのつかみ取り大会（越生町コミュニティ協議会）

越生町コミュニティ協議会では、小学生を対象にマスのつかみ取り大会を毎年開催しています。このイベントは埼玉西部漁業協同組合に協力をいただいて、きれいな川で子供たちが水に親しみ、自然を大切にする心を育んでもらうため開催しています。今年で31回目を迎えました。

協議会では、県コミ協から助成を受けて約350匹のマスを準備し、役員が川辺に作ったいけすの中で低学年と高学年に分かれてつかみ取りを行います。マスは取った分だけ各自持ち帰ることができます。子供たちは自分の兄妹、おじいちゃんやおばあちゃんの方も捕まえようと真剣な眼差しです。

同協議会長の挨拶では、「マスをたくさん取った高学年の子供たちが、あまり取れなかった低学年の子供たちに分けてあげるような優しい心も育ってほしい。」と語り、実際に、高学年の子供たちが低学年の子供たちを助けてあげる場面が多く見られました。

参加者からは、「マスが取れて嬉しいし、食べることも楽しみ。」「取ったマスを家族みんなで食べることができるのが嬉しい。」などの感想が出ていました。



埼玉県のマスコット  
コバトン



マスのつかみ取りの様子



元気なマスが取れたよ！

## 避難所設営・宿泊体験訓練（所沢市自治会連合会）



段ボールで上手に仕切っています。



かまど炊きごはん&手作りカレー  
おいしくできました。

いつどこで起こるか分からない大地震。誰でも避難所生活をする可能性があります。そこで所沢市吾妻地区の荒幡では、自主防災リーダーを対象として「避難所設営・宿泊体験訓練」を実施しました。当日は120名参加し、うち63名が宿泊体験をしました。

はじめに班ごとにゲーム形式で避難所運営訓練を行いました。避難者の年齢や性別、それぞれの事情が書かれたカードを避難所の体育館等を記載した平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験します。

考えられないようなアクシデントが記載されたカードもあり迅速に対処するのが難しそうでしたが、非常時には短時間のうちに決断すべきことが多いそうです。

次は避難所の設営です。広い体育館が段ボールで仕切られ、みるみる避難所らしくなりました。参加者からは「本当の震災時にはこんなに落ち着いてできないかもしれない。でもこの経験は絶対活かせると思う。」という力強い感想が寄せられました。

また、炊き出し訓練として、かまどによる炊飯とカレー作りも行いました。かまどで炊いたご飯はつやつやふっくら。カレーも大変おいしく、訓練で少し疲れ気味な皆さんも笑顔になっていました。





# 会員紹介

## 彩の国コミュニティ協議会の会員を紹介します



ラボトレイン

乗り降り自由のフリーきっぷ「秩父路遊々フリーきっぷ」を使って、秩父地域を散策しながら、指定のチェックポイントで様々な体験をし、約30種類以上ある「秩父カード」を集めるものです。列車に乗り、カードを集めながら長瀬・秩父地域の歴史や文化、自然を楽しく学ぶことができます。この他にも多くのイベントを開催していますので、ぜひ御参加ください。

### 秩父鉄道株式会社

秩父鉄道は、埼玉県北部を東西に横断し、熊谷を中心に東は羽生駅、西は三峰口駅に至る総延長71.7キロの鉄道です。荒川や利根川が育んだ豊かな田園地帯や、埼玉県の代表的な観光地である長瀬、秩父の雄大な自然の中を走っています。秩父鉄道株式会社では、鉄道を通して地域と自然に密着したイベントを年間を通して行っています。

平成26年2月の記録的な大雪によって大きな被害を受けた秩父地域の観光農業の復興を支援するため、埼玉県と連携し、同年9月には特別デザインのヘッドマークを正面に付けたSLイベント列車を走らせました。

また、秩父鉄道に乗ってオリジナルカードを集めるイベント「秩父鉄道カードラリー2015」を12月6日(日)まで開催しています。秩父鉄道全線が

### 埼玉県交通安全母の会連合会

埼玉県交通安全母の会連合会は昭和48年5月に結成され「交通安全は家庭から」をスローガンに、各市町村にある母の会の連合会組織として活動しています。61市町村の母の会会長が集い、よりよい活動を行うために研修や情報交換等を行っています。また、交通安全教室を実施した母の会には補助金を交付し、その活動を支援しています。

連合会事業の一つである「交通安全世代間交流事業」では、子供・親・高齢者の三世代が一堂に会し、体育館などで交通安全を学びます。実際の交通ルールに従って自転車走行したり、自転車シミュレーターで交通ルールを学習したり、交通安全かるたで知識を友達と競ってみたり…。三世代で共に学ぶことで、子供からお年寄りまで幅広い世代が楽しく、より実践的に交通安全を学ぶことができます。

また、「お達者訪問大作戦」と題して高齢者世帯を訪問し、チラシや啓発品の配布を通じて、相次ぐ振り込め詐欺などの被害や交通死亡事故のうち約4割を占める高齢者の死亡事故を防ぐために、声かけ活動をしています。

あなたの街にも黄色いたすきを掛け、暑い夏も寒い冬も交通安全を呼びかけている女性達があります。ぜひお気軽にお声がけください。



世代間交流事業(東松山市)

## お知らせ

### コミュニティ活動支援型自動販売機を設置しませんか？

コミュニティ活動支援型自動販売機とは、飲み物を買うことで県内各地で行われるコミュニティ活動への寄附につながる自動販売機のことです。平成26年度までに設置された5台に加え、平成27年4月に新たにウエスタ川越\*に設置されました。ウエスタ川越にお越しの際は是非見つけてみてくださいね。

設置者に設置費用の負担はありませんので、新しく自動販売機の設置を考えている方や入れ替えを検討されている方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記までご連絡ください。

\*ウエスタ川越：平成27年3月川越駅西口に誕生した複合施設  
(お問い合わせ：当協議会事務局 TEL048-830-2819)



ピンクのかわいい自販機です。